

六ヶ所村再処理工場

松浦雅代

資源を輸入に頼る日本が原子力を「準国産」のエネルギーにするために再処理工場に着工したのは1993年。97年完成する予定だった、トラブルで完成時期を24回遅らせてきました。2011年3月の東日本大震災に伴う福島第一原発の事故が起きて、手続きが止まったままになっていたようです。

福島の事故後新規規制基準に基づく稼働に向けた安全審査の申請を出したのが14年1月。今までのトラブル続きの施設で審査が長引き6年以上かかったようです。

私はもうこのままで動かさない方がよいガラス固化ができない限り無理だと思っていました。

しかし2020年7月原子力規制委員会は着工から30年近いトラブル続きの工場の稼働の前提となる安全審査の合格を正式に決めました。

2016年に廃炉が決まった「もんじゅ」。すでに核燃サイクルは破綻しています。六ヶ所村再処理工場はトラブル続きでした。ガラス固化できないと、今まで剪断した高レベル廃液が地震などで大事故を起こしてしまう危険性があります。

2008年に関西のグループで再処理工場の本格運転にストップを求めて「たべたいねん青森 いらんねん再処理」という意見広告を青森県の新聞に出し、青森県知事に再処理工場を動かさないでと申し入れに行きました。それから13年経とうとしています。あの時からガラス固化がうまくいかないのだから再処理工場はいまだに完成していないのです。2022年に完工予定だそうですが、どうするのか興味があります。なにしろ先輩格の東海再処理工場もガラス固化はうまくいっていないからです。

六ヶ所再処理工場のガラス固化が進まないのだから各地の原子力発電所から運び込まれた使用済み核燃料の受け入れ場所が満杯。

使用済み核燃料中間貯蔵施設の候補地として2003年和歌山の御坊市や一昨年は白浜町日置の名前が出ました。関西電力は福井県とは約20年前に中間貯蔵施設の立地場所を県外にすると決めていたそうです。福井県知事は再稼働の条件として中間貯蔵施設の具体化を関西電力に要請。当初は2020年度中に決めると言っていたのが決められず、その後今年になって2023年青森県のむつ市の施設の名前が伝えられましたが、むつ市は「そんなことはあり得ない」と反論しています。

しかし高浜町長も美浜町長も再稼働に賛成表明しています。あとは福井県の県議会です。どのような結論になるかです。福島原発事故を受けて原子炉規制法改正で、40年運転を原則として運転延長はあくまで例外とされていた。福井県は60年運転の日本で初めての老朽原発の再稼働をすんなりと受け入れるのでしょうか？（福井県の県議会が2月16日～3月17日まで開催されています。）

福島原発の事故から10年。事故の教訓は忘れたのか。地殻変動の激しい日本で再稼働はこれからの子供たちに何を残してしまうのかを考えると恐ろしい。